

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市沖野老人福祉センター
2	指定管理者	社会福祉法人仙台市社会事業協会
3	指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 平成29年度 38,282人（前年度比 100.9%） 平成28年度 37,947人（前年度比 102.5%） 平成27年度 37,036人（前年度比 96.1%）
		《事業》映画上映会（12回）、心身スッキリ体操（12回）、脳いきいきクラブ（12回）、開館記念行事（1回）、将棋大会（2回）、衛生講話（4回）、パソコン教室（4回）、無料行政手続相談会（6回）、管理運営委員会（4回）、行政書士講話（1回）、料理教室（1回）、介護保険教室（2回）、七夕飾り製作（1回）、夏まつり（1回）、消防訓練（2回）、健康マージャン交流大会（1回）、沖野東小 夏休み作品展示（1回）、豊齢を祝う会（1回）、卓球大会（1回）、沖野地区市民まつり（1回）、交通安全・防犯教室（1回）、冬至かぼちゃ（1回）、新年会（1回）、世代間交流（3回）、ひな祭り演芸大会（1回）
5	収支の状況	・ 指定管理者に支払った費用 37,344千円 （37,445千円） （ ）は前年度決算額
		・ その他市が負担した費用 951千円 （1,531千円） 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 （ 0千円） ・ その他収入 2千円 （ 1千円）
6	利用者の声	《実施状況》 館内設置のコミュニケーションボックスによる意見の聴取、利用者の代表により組織される管理運営委員会との年度内4回の会議により利用者の声をセンター運営に反映させている。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	老人福祉センターの設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解している。 また、利用者の健康づくりや、公平・公正な利用、高齢者の特性を理解したうえでの心身への配慮に努めるなど、利用者本位の施設運営を行っている。	S
II 施設の運営管理体制	必要数の職員が配置されており、各職員は他の職員の業務状況を把握している。経理処理も書類作成など適正に行われている。 また、個人情報の漏洩や滅失を防止するため、管理責任者を定めるとともに職員への周知等、意識啓発も行うなど、個人情報保護に対する体制を整えている。 事故や災害の発生に備え、連絡体制や職員の役割分担を予め決めていくなど、対応体制を構築している。	S
III 施設・設備の維持管理	利用者の安全・安心・快適な利用を維持するため、施設内外の清掃を適切に行い、事故防止のための館内巡回も行われている。 また、節電やごみ発生の抑制、グリーン購入を実施するなど、環境に配慮した施設運営を行っている。	S
IV サービスの質の向上	利用者が気持ちよく利用できるよう、丁寧な対応と分かりやすい説明を心がけている。 また、毎月のセンターだより発行など、利用者への情報提供や施設のPRも積極的に行っている。 さらに、利用者の意見や苦情に対し、その対応手順や担当者を明確にするとともに、利用者アンケートを年1回実施してニーズを把握するなど、利用者の意見を反映した施設運営に努めている。	S
V 施設固有の基準	高齢者が自ら学んだことを発表する機会の設定を積極的に行なっており、利用者の主体的な企画実施に対する支援も行っている。 また、利用者の代表者で構成する管理運営委員会を立ち上げ、利用者が施設運営に関わる仕組みづくりに努め、利用者の意見を取り入れた企画の立案を行っている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人仙台市社会事業協会）による自己評価》
<p>当センターでは、沖野・若林地域福祉の拠点として機能しうるよう、看護師・生活相談員を中心として健康・生活相談業務に力を入れており、介護保険教室においては、沖野地域包括支援センターの職員を講師として招き、健康寿命の講話や薬の正しい使い方・骨密度測定などを行った。また、4回の衛生講話では、軽運動と講話を2回ずつ行い、健康維持と併せて介護予防にも努めている。こうした、介護予防・認知症予防の事業はセンターの月例事業として定期的で開催され、毎回好評を得ることができていることから、利用者の方々の関心の高さが窺われるところである。今年度初めて開催した事業である、行政書士を招いて成年後見制度・遺言についての講話を開催した折には、これからこうした制度が必要となってくる方々のことも見据えて、同敷地内の沖野市民センターで開催掲示をして参加者層の拡張を図った。一方で、年間行事の多くは卓球大会・健康マージャン交流大会・夏まつり・世代間交流など、利用者の方々が職員と共にその実施主体となっており、ますます利用者の主体性・自主性が促進されている。このような観点から、今後の主なセンターの役割として、①健康・生活相談を通じて地域包括支援センター・ケアマネジャーへの橋渡しが可能となるようにする、②高齢化の進行する中で介護予防・認知症予防に関する事業の提供、③詐欺防止・高齢者の運転についての講話など、その時々ニーズに合った事業の提供をしていきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成29年度の管理運営について、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。 介護保険教室や、骨密度測定、ストレス測定など介護や介護予防に係る取組みを積極的に行っている。また地域包括支援センターと介護保険教室を共同開催するなどの施設間交流、利用者主体のパソコン教室などの利用者間交流、沖野児童館や沖野マイスクール児童館と将棋講座を共催するなどの世代間交流といった複層的な施設運営にも取り組んでいる。 管理者と管理運営委員会が年間行事について打ち合わせを行ったり、職員と利用者が協働して定期的な清掃活動を実施するなど、利用者主体の施設運営に努めるとともに、ボランティア活動の啓発にも意欲的である。 そのほか、成年後見や遺言に関する講座など、新たなニーズに応じた運営の改善にも取り組んでおり総合的に高く評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局保険高齢部高齢企画課